

# “こうすればできる”という 支援者の子どもも理解・本人の自己理解へ

単に、できないことができるようになるという意味ではなく…

## 「教育的ニーズ」の三つの観点

① 障がいの状態等

△△という  
困難さがあっても

② 特別な指導内容

〇〇という  
適切な指導と

③ 教育上の合理的配慮を  
含む必要な支援の内容

□□という  
必要な支援があれば…

本人が既にできていることや、得意なことを活かしながら、  
「なりたい自分」に近づくことができる。

不安や自己否定ではなく……



この“こうすればできる”を  
子ども本人が学習や経験をとおして実感する。



ライフステージをとおして  
“こうすればできる”を  
支援者は伝える。  
本人は学習や経験を通して  
実感する。

## 合理的配慮

### 自立支援・本人支援 / 自立活動

「何のための自立活動？」と  
尋ねられて、  
本人が  
「自分がこうなるためです」と  
相手に伝える。

自立活動の時間等が、子ども本人がなりたい自分やWell-beingのために、「こうすればできる」  
(つまり、「こんな学習・練習をがんばるとできる」「こんなサポートがあるとありがたい」)  
を学んで、「自己理解」につながる場になる。

地域で学び・生活するために

普段からの言葉がけ  
普段からの本人との対話

どうしたらできたの？  
おしえて！（過去）

こうしたらできたね！  
（現在）

どうすればできると思う？  
（可能性、未来）

子ども本人が“こうすればできる”と自信をもって学び、生活していく

a かな？ b かな？  
それとも c (自己選択)

あなたは どう思う？  
（自己決定）

あなたは どうなりたい？  
（将来の夢）



支援者同士の対話  
こうすればできるを  
考えるケース会議

「こうすればできる」を本人と共有する。  
「こうすればできる」という評価内容を校内、保護者、外部機関と共有する。  
「こうすればできる」をつなぐ。(評価内容を進路先に引き継ぐ)

【教育】 個別の教育支援計画・個別の指導計画

【福祉】 サービス等利用計画・個別支援計画

教育・福祉で  
「こうすればできる」を  
共有する。

園や学校で実際に確かめた  
「こうすればできる」という  
子ども本人にとって  
必要な指導・支援内容  
(評価内容)と  
就学先の「学びの場」が  
提供できる指導・支援内容との  
マッチングをする。

就学

進学

入試

就労

「あなたの合理的配慮は？」と  
尋ねられて、  
本人が  
「こうすればできます」と  
相手に伝える。



幼

小



中

高



企業等

